



次は「あなたの番」です

校 長

卒業生の皆さん、私が皆さんと初めて会った日のことを覚えていますか。その日は、令和4年4月8日(金)で、開講式がありました。令和5年度は、コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へと移行して、特段の制限や制約を設けることなく、年間計画どおり、滞りなく授業や行事などが行われていますが、あの日は、コロナ禍真っ只中の日でした。皆さんに話したことを振り返ります。

私は、冒頭で、「ひがまつ」は自分の未来は自分でデザインできる、自分だけの時間割を組むことができる超個性派高校なので、「ひがまつ」で勤務できることにワクワクしているという話から始め、細かな校則や制服がないこと、授業の始業を告げるチャイムが鳴らないこと、そして、生徒たちをまるで大学生のように大人扱いをしている「ひがまつ」の自由な校風について触れました。続けて、開講にあたって、二つ話をしました。

一つ目は、「学校とは、どんなところだと思いますか」という問いかけを皆さんにしました。私は、「学校とは、一人ではできないことをするところ、みんなと一緒にできないことをするところ」と思っていると話をしました。その一例として、皆さんの協力を得ながら、講堂で、ちょっとだけ、皆で踊りましたよね。

二つ目は、「好きなことや得意なことがあれば、どんどん伸ばしていったほしいこと。短所や不得意分野は、仮に克服しても武器にはならないこと。まだ好きなことや得意なことに気づいていない人は、授業や行事などに積極的に参加して、たくさんの人と関わっていくと案外見つかるものだ」という話をしました。

それから、およそ2年弱経ちましたが、皆さん、「ひがまつ」での高校生活はどうでしたか。県内唯一の教育システムを最大限に生かして、3年又は4年、さらにそれ以上の年数をかけて卒業する計画を立てて、じつくりと社会で生き抜くチカラを身に付けましたか、社会に出る準備はできましたか。また、様々な活動の中で、好きなことが見つかったり、自分でも分からなかった得意分野に気づいたり、「今、やらなければならないこと」や「できること」、そして「できないこと」を見極めて、時間や手間をかければ、前進することや解決すること、そして、成長することも学んだと思います。

この進路だより第10号では、卒業後、すぐに社会人となる皆さんに最後の問いかけをします。もちろん、大学などの上級学校に進学する皆さんには少しだけ猶予がありますが、いずれ社会人となりますので、一緒に考えてください。「社会人と高校生(大学生や専門学校生等)との違い何か」という問いです。答えは一つではありませんが、「ひがまつ」在学中に見極めたであろう「今、やらなければならないこと」や「できること」、そして「できないこと」の中でも、「できること」に焦点をあてて考えてみます。

「自分ができること」は、社会に出た途端に個人的な能力の話という枠組みから外れて、「他人から求められること(ニーズ)に対してできること」へと大きく変容していきます。卒業後、「自分ができること」は「社会的な能力」へとかわっていきます。社会で生きていくこと、社会人になること、大人になるということは、これがやりたいなどといった個人的な趣味や嗜好の部分はかなり小さくなり、他人との関わりの中で、他人からの求めに応じて対応していくことが大半を占めていくことを意味しています。さらに、少し大袈裟に言えば、これから、高校時代までの狭い世界とは比べものにならないほど、とてつもなく広い世界で、おびただしい他人との関わりの中で生きていくことになります。高校卒業までは、自分が他人に求めることが多く、誰かが自分のために協力してくれたから成長することができた、といえます。今度は、皆さんが、社会の中で、誰かのために協力していく番です。

その理由は、冬休み明けの生徒集会でも話をしましたが、人類(ホモ・サピエンス)は、「協力すること」で他の人類種との熾烈な生存競争を生き抜き、氷河期という過酷な状況下において生き延びたことに起因します。自分の求めだけでなく他人の求めにも応じていくという相互扶助(協力して支え合いながら生きていくこと)が、いままでも、そして、これからもずっと、皆が生き延びるための鍵です。我々は、棄権や失格もなく、後戻りもしない歴史という名のリレー競技の走者です。もしかしたら気づいていないかもしれませんが、皆さん一人ひとりに、様々な形をしたバトンが手渡されています。バトンをつないでいくことが、協力して支え合いながら命を守っていくことになります。

したがって、卒業後の生活は、大きく変わっていきます。社会に出て行こうとする時は、誰しも、特に若者にとっては、不安と心配で押しつぶされそうになるものです。何をしたらよいのか迷っているのなら、まず、健康を第一に考えながら、他の人の追従を許さないほどに、目の前のこと(就職先の仕事、専門学校等で学ぶ専門技術、大学で行う研究)を、ただただひたすらに取り組むことです。そうすれば、誰もあなたを放っておきません。不安の中でも、愚直なまでに心を傾けて行動することが、不安を希望にかえる原動力となります。卒業生の皆さん一人ひとりが、それぞれの場所で、それぞれの得意分野や強みを生かして、誰かの求めに応じて活躍されるよう期待しています。

これを読んだ在校生の皆さん、次は「あなたの番」です。

新しい年度が始まるまでに準備をしておいてください

進路指導部長

後期第2回考査も終わり、皆さんはこれから、新年度に向けての準備を本格的に始めなければならない時期になってきました。1年間の中でもここからの1か月間の過ごし方というのはとても大切です。卒業を迎える人だけでなく、来年度も高校生活を続ける皆さんも少し考えてみてください。

まず、卒業をする皆さん、最後の定期考査はいかがでしたか。万が一、欠点となってしまったという人は、何としても欠点を解消する努力をしてください。皆さんが、頑張って決めた進学先や就職先は、高校卒業という条件が必ず付いています。また、特にAO入試や総合型選抜、推薦入試で進学を決めた人には、ほぼ間違いなく上級学校からの課題が課されているはずです。必ず期限までに取り組んでください。就職をする皆さんにも、企業からビジネスマナーなどの課題や、入社式に向けた社内報の原稿依頼や制服の採寸、社員寮の手続き、採用条件の確認や銀行口座の開設などやらなければならないことがたくさんあります。高校では考えられないような忙しい日々が始まります。先延ばしにしないで、すぐに取り組んでください。あなたが生活していくために必要なことです。

さて、次に次年度も本校で高校生活を続ける皆さん、どうか、これまでの欠席日数と評定平均、取得した資格、委員会やボランティア活動など校内外の活動記録をまとめておいてください。そのために、SAの先生には「進路カルテ」というものを渡してあります。どうか、活用して記録しておいてください。これからの進路活動では必ずこの記録が役立ちますし、願書や履歴書など進学や就職に必要な書類は、皆さん自身が作成するものです。自分を売り込む材料ともなりますので、SAに相談してください。今年度もあと1か月です。ぜひ、今年度の仕上げと次年度の準備をお願いします。

〈進路室より〉「金銭・租税教室」を行いました

1月26日の総合的な探究の時間に、進路指導部主催で金銭・租税教室を行いました。ライフプランの設計や税の意義・役割などをテーマとして、講師の先生をお招きしてお金や将来について考えてもらいました。



20・21年次の租税教室



22年次の金融経済教育



ライフプランを書き込む23年次生

編集後記 「冷暖自知」(れいだんじち)

みなさんは、「冷暖自知」という言葉を知っていますか？訓読すると「冷暖自(みづか)ら知る」と読み、その由来は「景德傳燈録(けいとくでんとうろく)」という禅宗の歴史書から来ている禅語です。「景德傳燈録」巻四にある蒙山道明禅師の章は、「人の水を飲みて冷暖自知するがごとし」という一節があります。

この一節は、目の前にあるお茶が温かいか冷たいかは見ているだけでは分からない。温かいか冷たいかを知るには、自分で飲んでみなければならない、という意味があります。人の話に耳を傾けて共感することや、想像の翼を広げることはもちろん大切ですが、人から聞いた借り物の知識ではなく自分で体験してみることに意味があるとこの一節は述べています。全ての世界や経験を「冷暖自知」することはできませんが、自分の将来に関することは「冷暖自知」してほしいと思います。